

製品名: RUNX3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17444**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000 |
| 分子量 | 44kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | RUNX3 RUNX3; AML2; CBFA3; PEBP2A3; Runt-related transcription factor 3; Acute myeloid leukemia |
| 別名 | 2 protein; Core-binding factor subunit alpha-3; CBF-alpha-3; Oncogene AML-2; Polyomavirus enhancer-binding protein 2 alpha C subunit; PEA2-alpha C; PEB |
| 遺伝子 ID | 864.0 |
| SwissProt ID | Q13761 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト RUNX3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 133-182 |

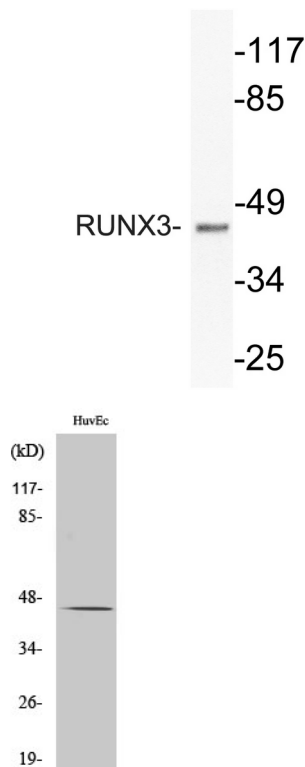
背景

この遺伝子は、ランドドメインを含む転写因子ファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質と β サブユニットのヘテロ二量体は複合体を形成し、多くのエンハンサーやプロモーターに存在するコア DNA 配列 5'-PYGPYGGT-3' に結合して転写を活性化または抑制します。また、他の転写因子とも相互作用します。腫瘍抑制因子として機能し、がんにおいては頻繁に欠失または転写サイレンシングされます。選択的スプライシングによって、複数の転写バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2016年3月], ドメイン: C末端のプロリン/セリン/スレオニンに富む領域は、標的遺伝子の転写活性化に必須である。機能: CBF は、マウス白血病ウイルス、ポリオマウイルスエンハンサー、T細胞受容体エンハンサー、lck、IL-3、GM-CSF プロモーターなど、多くのエンハンサーおよびプロモーターのコア部位である 5'-PYGPYGGT-3' に結合する。類似性: 1つの Runt ドメインを含む。サブユニット: α サブユニットと β サブユニットのヘテロダイマー。 α サブユニットは単量体として、また Runt ドメインを介して DNA に結合する。DNA 結合はヘテロダイマー化によって増加する。TLE1 および SUV39H1 と相互作用する。、

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、その他の因子、神経科学、発達

画像データ



RUNX3 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解液のウェスタン ブロット分析。

1: 500 に希釈した RUNX3 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタン ブロット分析。